

区 分	説 明
基本方針	○通史編さん：昭和20年8月の終戦から平成11年4月の西尾邑次知事の退任までの期間を対象にし、『通史・現代1』を執筆・刊行する。 ・『鳥取県史 近代』（昭和44年刊）は昭和40年代初期までを扱っており、今回編さんの対象とする時期と重複するが、その後発見された資料や新たな研究成果を踏まえた記述に努める。 ・執筆に際しては『鳥取県史 近代』の続刊という位置付けであることを意識し、書きぶり等の連続性に配慮する。 ・『新鳥取県史 資料編 現代1・2』及びこの巻の編さん時に収集した資料を用いて、執筆者は通史を記述する。 ○資料編さん： ① <u>平成11年4月の西尾邑次知事の退任以降を扱った『通史・現代2』を刊行することを想定し、これに先立ってこの時期の『資料編』を刊行するため、必要な資料収集を行う。</u> 収集に際しては特に以下の資料を優先する。 ・20年が経過し、散逸の恐れのある市町村合併関係資料 ・この時期に特徴的である大規模災害資料（鳥取中・西部地震、新型コロナウイルス対策事案関連） <u>なお、『通史・現代2』の編さん方針は、この時期の『資料編』の刊行後に策定する。</u> ② 『通史・現代1』の執筆に当たっては、『新鳥取県史 資料編 現代1・2』及びこの巻の編さん時に収集した資料を検討し、追加が必要な資料の収集を行う。
刊行内容等	○通史：以下のとおり二巻編制とし、本県が再置されて150年を迎える<u>令和13年9月の刊行を目指す</u>。概ね各巻800～1,000ページとする。 鳥取県史 通史・現代1 第一巻 政治篇・経済篇 第二巻 社会篇・文化篇 ○収集資料：収集後は資料に解説を付し、『資料編』として刊行する。<u>刊行までの間は、所有者の許諾を得た等可能なものからインターネット公開を行う。</u> ○編さん業務に係る具体的な年次計画は別添1を参考にし、編さん会議で必要な調整を行う。
編さん体制	○当該事業の円滑な推進のため、「鳥取県史編さん会議」を設置し、必要な資料調査のために調査委員を設ける。 ○編さん会議：各編の詳細内容を定め、各編共通の問題を整理し、社会的政治的背景及び影響などに対する観念を整理した上で、同一人が執筆したのと同様の内容とするため、様々な歴史的事象の認識や解釈を共有した上で執筆を統括する。 ・当会議の専門分野及び委員は、以下のとおりとする。 【専門分野】政治、経済、社会、文化 【委員】岸本覚（鳥取大学地域学部長）、多田憲一郎（鳥取大学地域学部教授）、長志珠絵（神戸大学大学院国際文化学研究科教授）、佐々木孝文（鳥取市教育委員会文化財課長）、西村芳将（青谷かみじち史跡公園所長） ・各委員が分担する専門分野等については、当会議にて決定する。 ○執筆者：各編さん会議委員及び事務局が中心となって県内をフィールドとする研究者を中心に各専門分野4名程度を執筆者として選定する。その際、若手研究者の発掘及び育成に努めるものとする。 ○調査委員：各専門分野ごとに設置し、各編さん会議委員が作成する資料目録に基づいて収集調査を行う。 ○当該事業の実施のため、事務局として県立公文書館に県史編さん室を設ける。 ○編さん業務に係る具体的な執行体制は別添2を参考にし、編さん会議で必要な調整を行う。